

□議員名：下瀬俊夫

1 「成長戦略室」の設置目的は何か

論点	「成長戦略室」の先取りといわれた埴生－市民病院間の直行バスは、埴生地域の医療難民対策と言いながら、なぜ市民病院患者だけが対象なのか。
回答	病院局長から埴生地区の医療難民対策として相談があり、市長の方から秘書課に指示した。「成長戦略室」の仕事なら、もっと宣伝をしている。

2 人事のあり方について

論点	国民健康保険課の課長、課長補佐が、この5年で3人も同時に異動した。これではまともな専門家は育たない。こんな人事が多すぎるのではないか。
回答	確かに仕事の専門性を高め、市民ニーズに的確に応えるためにも一定の経験年数が必要と思う。職員の適材適所に努めながら、3～5年を目安に人事異動を考えたい。

論点	先日の代表質問で、総務部長はサービス残業を認める発言をした。重大な発言だが、「風呂敷」残業などもあり、サービス残業の実態調査が必要だ。
回答	サービス残業容認の発言の記憶がない。所属長の許可があって初めて残業となるが、個人情報保護の点からも資料を自宅に持ち帰っての「風呂敷」残業は好ましくない。恒常的な実態があるのなら、調査の必要がある。

3 市役所臨時職員の処遇改善を

論点	職員の3分の1が臨時で給与は4分の1程度。先進自治体では臨時職員の役割を正當に評価し、定数化や給与の抜本的改革に取り組んでいる。
回答	確かに臨時も正規職員と同じ仕事に関わっている。先進地への視察等も含めて、来年3月くらいには新しい臨時職員の対応策を打ち出

	したい。
--	------

論点	埴生支所の公金横領事件は臨時職員が起こした。5年前の教訓が生かされず、「公金管理の適正化」が再発防止の役に立たなかったのはなぜか。
回答	事件を起こした臨時職員の名前を公表しなかったのは、家庭の事情があるからだ。臨時職員の研修や市長との面談を含めて処遇改善に取り組みたい。 「適正化」の方針については今後、抜本的な改訂版を出したい。支所の出納室を閉鎖して、収納業務をカウンターで行うとの意向もある。

論点	高く評価されている学校図書支援員を、なぜ昨年から突然、夏休みなどの長期休暇は出勤停止となり無給としたのか。アルバイトをなぜ許可しない。
回答	議会の指摘を受けて初めて出勤停止・無給ということを知った。新年度からは長期休暇中も仕事を作り、このような無給状態は解消したい。確かに臨時の学校給食調理員は、長期休暇中のアルバイトは認めているが、図書支援員へのそのような援助はしていなかった。反省している。